

株主のみなさまへ

花王株式会社 中間事業報告書

2002.4.1 ~ 2002.9.30



“攻めの姿勢”を堅持し、さらなる成長・発展

中間決算の概況

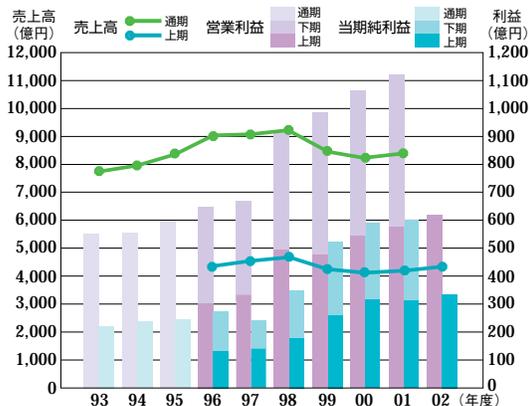
当中間期の国内外の経済は、米国経済の減速の影響を受けて、総じて停滞しました。日本においても、期初に輸出や生産などの指標に回復の兆しが見られたものの、不良債権問題や株安などの先行きへの不安感から景気の低迷が続きました。

このような経営環境の下、当中間期の連結売上高は、4,349億円(前年同期比103.2%)となりました。海外売上高の円安による換算為替差(80億円の増加)の影響を除くと、前年同期比101.3%となります。国内事業の売り上

げは、家庭用製品が市場の低迷や販売価格の低下の影響を受けましたが、積極的なマーケティング施策が奏効したことで増加しました。工業用製品は、輸出製品に対しての需要は多かったものの、国内景気の低迷の影響を受けました。一方、海外事業は、台湾など一部の地域を除くと、家庭用製品及び工業用製品ともにほぼ順調な売り上げとなりました。

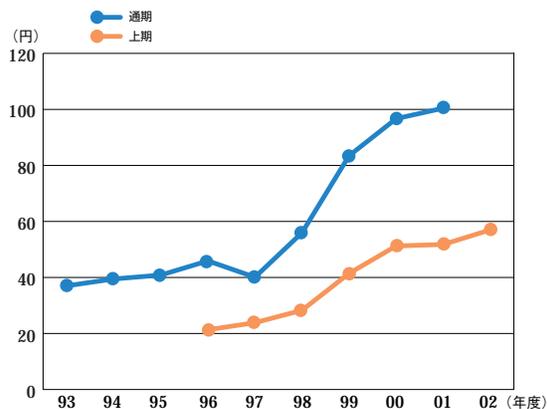
連結営業利益は615億円(前年同期比107.4%)となりました。国内事業は、販売価格の低下や需要の低迷などの影響を受けましたが、家庭用製品の売り上げ増加、コストダウンや費用の

◆ 連結売上高・利益の推移



(注) 上期の連結売上高・利益は96年度分より算定しております。

◆ 連結1株当たり純利益の推移



(注) 上期の連結1株当たり純利益は96年度分より算定しております。

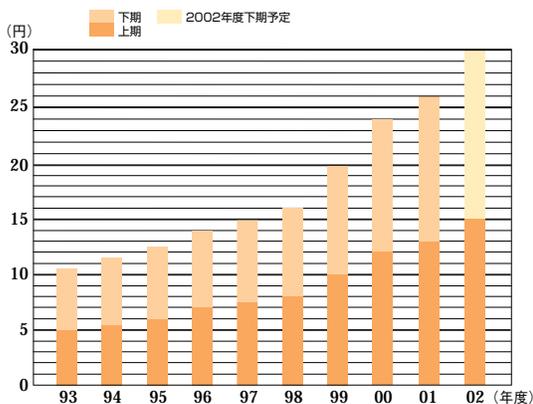
をめざす

効率的活用、さらに減価償却費の減少などで吸収し、前年同期に対して34億円増加し、530億円となりました。また、海外事業は、欧米の家庭用製品及び工業用製品の利益増加などにより、82億円(前年同期比103.7%)となりました。

連結経常利益は626億円(前年同期比108.8%)、連結中間純利益は332億円(前年同期比106.0%)となりました。

また、自己株式1,253万株を市場買付したことなどにより、連結1株当たり中間純利益も順調に増加し、56円99銭(前年同期比110.1%)となりました。

◆ 1株当たり配当金の推移



平成14年11月

花王株式会社

取締役社長

後藤卓也

当期の中間配当金は、当初の予定通り、前年同期より2円増配の15円とさせていただきます。

今後の経営施策

以上のように、国内外における経済の厳しい状況が続く中、当社の業績は、ほぼ当初の予定通り、順調に推移しました。当社は今後とも、積極果敢な“攻めの姿勢”を堅持し、以下の諸施策を全社をあげて、力強く実行してまいります。

(1) “強いブランド”をさらに強く

当社には、消費者の高い支持と信頼に支

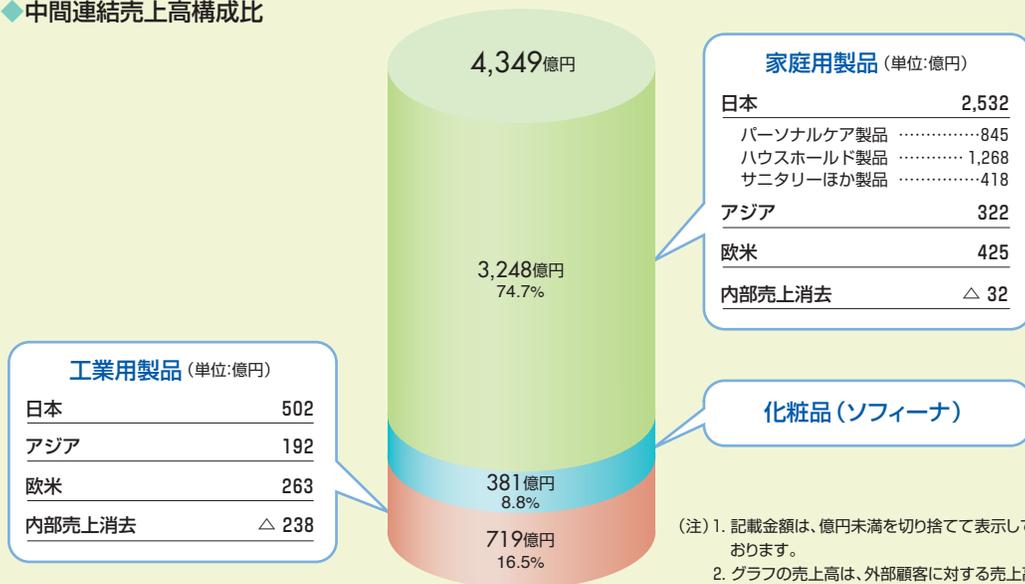
えられ、長期にわたって経営の柱となっている「強いブランド」が数多くあります。例えば衣料用洗剤「アタック」は、1987年に発売し、以来15年に及んで、衣料用洗剤市場でトップシェアを維持しております。しかし、当社は、その地位に安住することなく、消費者の声に謙虚に耳を傾けながら、数回に及ぶ抜本的製品改良をはじめ、マーケティング・販売施策の強化からパッケージの見直しに至るまで、キメ細

かい改良を常に継続しております。

一方、健康機能油市場を大きく開拓した「健康エコナ」シリーズに代表されるような、当社の将来を担う新たな「強いブランド」も着実に成長・発展を遂げつつあります。

当中間期に新発売した「アタック シュツと泡スプレー」や「健康エコナ マヨネーズタイプ」も、ブランドに対する信頼性の高さに支えられて、好調なスタートを切っております。

◆ 中間連結売上高構成比



(2) 新市場創造型の新製品の開発

当社は、今後とも、“消費者視点”に立った新市場創造型の新製品の開発に力を注いでまいります。すなわち、メーカーサイドの発想に偏った製品開発ではなく、あくまで消費者の暮らしの変化にしっかりと目を向け、そこに隠された真のニーズを発掘することを出発点とした上で、そのニーズに当社独自の創造的な技術開発力で応えていく。こうした当社のモノづくりの原則に基づいた活動を推進してまいります。

(3) 海外事業の飛躍をめざして

国内市場が低迷を続ける中、海外事業の充実・強化は、当社の今後の成長戦略にとつて欠かすことのできない課題です。

まず、アジアにおいては、事業環境の変化に対応するため、台湾やアセアン地域の生産体制の最適化やマネジメント体制の強化を図るとともに、基幹ブランドに経営資源を集中的に投下するなど、戦略的な事業展開を続けております。また、将来の大きな発展が見込まれる中国市場においては、今年夏に上海に資本金3,000万米ドルの持株会社を設立するなど、

今後の事業展開の基盤固めに努めております。

米国においては、アンドリュー・ジャーゲنز社が昨年発売した「ジャーゲنز ナチュラルースムース」などを中心としたスキンケア事業に注力するとともに、今年9月にはヘアケア分野で高いブランド価値を持つジョン・フリーダ社を買収し、今後、当社が長年培ってきたヘアケア技術開発力との大きなシナジー効果が発揮されるように努めてまいります。

また、欧米を中心に美容室向けヘアケア事業を展開しているゴールドウェル社については、今年、ゴールドウェルジャパン株式会社を設立したことで、日・米・欧の3極をカバーする本格的なグローバル戦略のスタートを切っております。

当社は、以上のような諸施策の実行によって、事業活動面でのさらなる発展を期すと同時に、企業倫理に反する行為が企業の存続そのものを危うくする昨今の状況を他山の石として、常にコンプライアンス意識の浸透と徹底を図り、また、リスクマネジメントの一層の充実を図ってまいります。

株主各位におかれましては、こうした当社の活動にご理解をいただき、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務報告の要約 (記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。)

◆中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資 産 の 部	当中間期	前期	負債、少数株主持分 及び資本の部	当中間期	前期
	平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在		平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在
流 動 資 産	2,907	3,527	流 動 負 債	2,027	2,146
現 金 及 び 預 金	411	266	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	639	680
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	970	1,037	未 払 金	163	235
有 価 証 券	568	1,294	未 払 費 用	574	602
た な 卸 資 産	694	672	そ の 他	649	628
そ の 他	262	256	固 定 負 債	810	750
			社 債 及 び 長 期 借 入 金	356	366
固 定 資 産	4,576	4,192	そ の 他	453	383
有 形 固 定 資 産	2,854	2,955	負 債 合 計	2,837	2,896
建 物 及 び 構 築 物	975	997	少 数 株 主 持 分	221	227
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	950	1,001	資 本 金	854	854
土 地	761	763	資 本 剰 余 金	1,088	1,088
そ の 他	166	192	利 益 剰 余 金	3,353	3,098
無 形 固 定 資 産	1,069	531	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	34	25
投 資 そ の 他 の 資 産	651	704	為 替 換 算 調 整 勘 定	312	227
			自 己 株 式	592	241
繰 延 資 産	1	1	資 本 合 計	4,425	4,597
資 産 合 計	7,484	7,721	負債、少数株主持分及び資本合計	7,484	7,721

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 当中間期 7,454億円 前期 7,350億円

2. 連結財務諸表規則の改訂に伴い、前期において資本準備金、連結剰余金と表示していた項目は、それぞれ資本剰余金、利益剰余金として表示しております。

ポイント

固定資産は米国のジョン・フリーダ社の買収に伴う営業権や商標権の取得などにより増加しましたが、流動資産において短期運用として保有している有価証券や売上債権が減少したことなどにより、総資産は前期末に比べ 236億円減少しました。

ポイント

負債は、仕入債務や未払金の減少などにより減少しました。当中間期末の短期を含めた社債及び借入金の残高は前期末に比べ 34億円減少して524億円となりました。資本は、当中間期も352億円の自己株式の取得を行ったことなどにより減少しましたが、株主資本比率は59.1%と高水準を維持しております。

◆中間連結損益計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで
売 上 高	4,349	4,215
売 上 原 価	1,823	1,809
販売費及び一般管理費	1,909	1,832
営 業 利 益	615	573
営 業 外 損 益	10	2
経 常 利 益	626	576
特 別 損 益	20	15
税金等調整前中間純利益	605	560
法人税、住民税及び事業税等	259	238
少数株主利益(減算)	13	7
中 間 純 利 益	332	314

(注)1株当たりの中間純利益 当中間期 56円99銭
前年中間期 51円78銭

- 連結子会社は77社、持分法を適用した子会社・関連会社は11社です。
- 前年中間期に対する伸長率
 売上高 3.2% (海外売上高の換算為替差を除くと1.3%)
 営業利益 7.4%
 経常利益 8.8%
 中間純利益 6.0%
- 連結売上高に占める海外売上高の割合は26.0%で、前年中間期に対して2.3ポイント増加しました。

ポイント

売上高が増加したこと、コストダウン効果や費用の効率的な活用などにより営業利益は増加しました。経常利益、中間純利益も順調に増加しました。1株当たりの中間純利益は、中間純利益の増加と自己株式の市場買付を行ったことなどにより順調に増加しました。

◆中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科 目	当中間期	前年中間期
	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	667	687
税金等調整前中間純利益	605	560
減価償却費	277	278
持分法による投資損益(利益:)	6	6
売上債権の増減額(増加:)	91	42
たな卸資産の増減額(増加:)	2	20
仕入債務の増減額(減少:)	54	4
退職給付引当金の増減額(減少:)	74	48
法人税等の支払額	277	292
その他の	40	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	748	175
有形固定資産の取得による支出	243	272
無形固定資産の取得による支出	428	7
新規連結子会社の株式取得に伴う支出	139	
その他資産増減額(増加:)	64	104
財務活動によるキャッシュ・フロー	467	523
社債・借入金の増減額(減少:)	30	104
自己株式の取得による支出	352	341
配当金の支払額	84	77
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	9
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	565	2
現金及び現金同等物の期首残高	1,249	1,534
新規連結子会社の現金及び現金同等物期首残高	9	9
現金及び現金同等物の中間期末残高	693	1,541

ポイント

営業活動によって得られたキャッシュ・フローはほぼ順調に推移しましたが、投資活動において米国のジョン・フリーダ社を買収したこと、財務活動において株主還元と資本効率向上のため当中間期においても引き続き自己株式の市場買付を行ったことなどにより、現金及び現金同等物の中間期末残高は前期末より555億円減少しました。

新製品のご紹介

健康エコナ[®] マヨネーズタイプ

「おいしさ」と「健康」をたっぷり味わえます

一般的なマヨネーズ*の成分の65%以上は油。その油に「健康エコナ」を使用しています。良質な国産卵黄とブレンドビネガーを使用しているので、マヨネーズ本来のおいしさはそのままです。

*JAS規格のマヨネーズを指します。



花王ソフィーナ[®] ライズ[®]

「キメ密度」の高まったような肌へ

「ライズ」は、ソフィーナの原点である「真の素肌美」を追求して、長年のセラミド研究の成果を結集させて誕生しました。うるおいの鍵であるセラミドの働きを補い、「キメ密度」の高まったような美しい肌に整える基本ケア品です。キメ細かく、弾むような素肌を保ちます。



●ホームページのご案内

下記の当社ホームページでは、決算や新製品のお知らせなど、さまざまな情報を提供しております。ぜひご覧下さい。

<http://www.kao.co.jp>

●株式に関するお問い合わせ先(名義書換代理人)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター
TEL (03) 3323-7111 (代)

●お手続き用紙のご請求について

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人の下記のフリーダイヤル及びホームページにて24時間受け付けております。

☎0120-87-2031 (自動応答)

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06/p_06_11.html

(注) 証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引のある証券会社にお申し出下さい。

清潔で美しくすこやかな毎日をめざして

花王株式会社